

P D C Aサイクルの構築について（基本的な考え方）

1 総務省通知（H28.9.23）の概要

- 1) 本年度中に、成果指標（KPI）等を設定し、P D C Aサイクルを構築すること
- 2) 圏域の将来像として、中長期的な将来の人口、高齢化率等の目標を定めること
- 3) 事業単位又は施策単位の成果指標を定めること
- 4) 医療・福祉、産業振興など、政策分野ごとの基本目標を設定することが望ましいこと

2 中長期的な将来の人口、高齢化率等の目標

- 1) 人口ビジョンの将来展望の数値を活用する
各市町村の人口ビジョンとの整合を図る観点から、将来展望として掲載された数値を合算して活用することとし、定住自立圏として独自推計は行わない。
- 2) 表記を「人口の将来展望」とする
各人口ビジョンの将来展望は「目標」「見通し」「推計」など取扱いが異なり、「目標」として位置づけるのは困難なため、「人口の将来展望」と表記する。
- 3) 展望する年次は 2040 年とする
人口動態、特に自然動態の変化は長期にわたり影響を及ぼし、短期的改善は難しいことから、将来展望の年次は全市町村の人口ビジョンに推計値が掲載されている 2040 年とする。
- 4) 総人口及び 3 区分人口比率を掲載する
将来展望の数値として、圏域の総人口のほか、年齢構成について総合的に考慮するため、年少人口比率、生産年齢人口比率及び高齢人口比率を掲載する。
- 5) 毎年度、住民基本台帳人口の推移を提示する
毎年度の進捗管理に当たり、住民基本台帳ベースで圏域の人口推移を把握し、共生ビジョン懇談会に参考として提示する。

3 成果指標

- 1) 「基本目標兼成果指標」として設定する
基本目標と成果指標を両方設定する場合、大幅な重複が想定されるほか、実績値が逆方向に推移すると評価が困難となるため、「基本目標兼成果指標」として一体的に設定する。
- 2) 指標設定の単位を共生ビジョンの「取組項目」とする
国の想定との整合や取組の改善につながるきめ細かな評価を行うため、指標設定の単位を「救急医療体制等の確保」「地域医療体制の充実」などの「取組項目」（施策単位）とする。
- 3) アウトカム指標を設定する
取組の成果を分かりやすく示すため、事業量などのアウトプット指標ではなく、利用者数などのアウトカム指標を設定する。